

平成26年度

学校経営計画（スクールマネジメントプラン）
（ 最終段階評価 ）
【 分掌・教科 】

京都府立東稜高等学校

平成26年度 府立東稜高等学校 学校経営計画

平成26年4月1日

学校経営計画（中期経営目標）

- ① 何事にも主体的・積極的に取り組み、自己実現を目指しながら努力するなど、将来社会に貢献できる人間を育成する学校づくりを行う。
- ② 人権尊重の立場に立って、自らを大切にし他を思いやることのできる豊かな心を持った生徒を育成する。
- ③ 生徒の実態を踏まえ、自ら学ぶ学習態度を育成し学習指導の充実強化に努める。
- ④ 基本的生活習慣の確立を図り、自主・自立の態度を備えた生徒を育成する。
- ⑤ 進路指導を適切に行い、個々の進路目標を達成させる。

昨年度の成果と課題

- ① 学力向上フロンティア校支援事業における取組を推進することができた。
- ② 学習の基礎・基本を徹底させて学力の向上を目指す「学びの原点」を活用することができた。
- ③ 「サイエンスリサーチシリーズ」「ヒューマンリサーチシリーズ」を継続実施する等、高大連携の充実を図ることができた。また、大学や地域から社会人講師を招いたり、カタリ場や施設見学するなど、キャリア教育に関する行事の一層の充実が図れた。
- ④ 交通安全指導では、交通安全週間に、PTAの役員の方々にも協力していただいた他、地域から様々な情報をいただき、危険箇所については教員とともに山科警察署員の方にも、指導していただいた。また、醍醐十校区自治連合会交通安全推進委員の方々にも協力していただき、交通安全キャンペーンを展開することができた。
- ⑤ 学校説明会、ホームページ、「東稜だより」の定期的発行等を通じて、情報発信を積極的に行い、中学校や地域社会から本校に対する理解をより得られることができた。
- ⑥ 部活動加入率は目標をやや下回ったが、全国大会や近畿大会への出場、また吹奏楽部コンクール小編成の部銀賞授賞などの成果があった。部活動加入率を高め、より多くの部で一層の活躍を期待したい。
- ⑦ 授業公開（授業参観）、研究授業を活用して、授業力の一層の向上を図り、生徒の家庭学習時間の増加や学習力向上を目指したい。

本年度の学校経営の重点（短期経営目標）

- ① 「真の自己実現にTRY」をスローガンに「人間力」と「質の高い学力」を育むキャリア教育の推進を継続し、地域と共に育つ学校、確かな進路の実現を目標に特色ある教育活動を実施する。生徒が「伸びる」・生徒を「伸ばす」学校を目指す。
- ② 規律ある集団を育成するための指導を徹底し、安心安全で落ち着いた学習環境を維持し、最後までやり切る・やり切らせる指導を推進する。また、新入生オリエンテーション等をさらに改善し、身だしなみやあいさつを大切にする等社会的マナーの一層の充実を目指す。
- ③ 生徒の学びへの姿勢を向上させ、授業を大切にし主体的に学習に取り組むことで、学習時間の伸張を図り希望進路の実現を目指す。
- ④ 生徒の心身の発達や健康の増進を図るため、教育相談・特別支援教育体制の充実を一層図る。
- ⑤ 部活動等の特別活動の一層の活性化と競技力の向上を図る。
- ⑥ 保護者や地域に積極的に情報を発信するとともに、「選ばれる学校」「開かれた学校」をめざし地域貢献・地域との交流を、積極的・継続的に実践する。また、地域社会及び小・中学校との連携を一層推進する。
- ⑦ 土曜授業の成果と課題をふまえ、内容の充実を図り、平常の授業と課外活動のバランスと充実を目指す。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織・運営	様々な教育活動を、全教職員の共通認識のもと、一致協力して推進していきける体制をさらに充実させる。	教職員間での挨拶の励行等を実践し、建設的な意見交換を活発に話しやすい明るい職場づくりを構築する。 各事業・各行事等の窓口と役割分担を明確にし、情報の共有化を図り、各分掌間の連携を深める。	A	A	朝の打合せ会の簡素化及び内容伝達の方法が定着した。教職員同士の打合せにおける挨拶の励行が実施できている。校内内規の全面見直しと現行に併せた改訂版の作成ができた。 総務企画部・キャリア系教科担当者を中心に各事業の取りまとめ、副校長から外部に対する広報資料の発信は、昨年度に続き活発化しているが、事業に対する担当が分掌ではなく人に付いてくるといふ課題解消までには至っていない。HP、学校説明会等の広報活動や各行事への企画参加の記録はしっかりと残せ、将来構想や学校説明会等の資料として活用できた。
	現在までの特色ある教育活動のバランスを図りながら、類・コースに合った継続した取組として、次年度以降に向けた東稜高校構想を具体化し発信する。	次年度以降に向けて、東稜高校の将来構想に繋げ、さらに取組を充実・発展させるために、キャリア教育推進会議やフロンティア会議、アカデミー推進会議等を積極的に活用する。また、各種事業の継続と発展を図る。	B	B	
教育課程の編成と実施	東稜高校の将来構想に基づいた特色ある教育課程を作成し、次世代の高校制度に対応することを目指す。	類・類型制度の改革に連動して、平成26年度入学生の教育課程を検証し、27年度入学生の教育課程を作成する。	A	A	平成26年度入学生教育課程の検証を踏まえ平成27年度入学生教育課程を編成した。平成26年度に様式改正した「シラバス」と年間行事計画を有機的に連動させ、一層活用することが必要である。今年度の課題を整理して次年度に活かすために、早期の検討を依頼し成果を残した。
	より使いやすく、実践的に改善された「学習の手引き(シラバス)」の有効活用の促進を図る。	「学習の手引き(シラバス)」を各種オリエンテーション等に有効活用する。 「年間授業計画」の有効活用を研究する。 改訂された「学習の手引き(シラバス)」と「年間授業計画」の有効活用を推進する。	B	B	
学習指導	授業規律を確保し、家庭学習習慣を定着させ、基礎学力の育成を図る。	始まりのチャイムから終了のチャイムまでの50分間の授業を大切にすることをさらに推進する。学年部・進路指導部等と連携して、生徒の授業参加への積極的な姿勢及び学習意欲の維持・向上を図る。 各教科と連携して、基礎学力補充の計画的実施とその内容の充実を図る。	A	B	50分の授業時間確保については十分に定着している。文化祭後には、授業規律を一層確保するため、教科・担任・分掌と連携して指導を強めたが、学習意欲の維持・向上への取組は、一部生徒において今後の課題となっている。 基礎学力補充は、すでに確立している考查前の全体計画とあわせ、日常的補充の充実が課題である。 研究授業は、今年度から2回設定し、教科別の他に教科横断型型の研修を実施した。11月の教務研修会では2回目の研究授業と連動させ、評価の他に授業改善のヒントとなる実践例についても取り上げた。 授業改善により学力の伸長を目指し、より能動的な学習の姿勢を定着させていかなければならない。
	「わかる授業」と「適切な評価」についての研究と研修を推進する。	各教科と連携して、授業改善と評価改善の研究を進め、実践する。 公開授業、研究授業のより良いあり方を検討するとともに、教科主任会議等を活用して、評価の改善を進める。	B	B	
	アカデミーコースや第Ⅱ類文理系、第Ⅰ類文理科系の指導を充実させ、学力の伸張を図る。	「土曜授業」の円滑な運営を図り、量的にも質的にも「自ら学ぶ力」の向上を図る。 高大連携を積極的に進め、生徒の学びに対する興味・意欲・関心を高める。	B	B	

生徒指導 特別活動	部活動、特別活動や体験学習を通じて、規範意識を確立させ、積極的に社会へ貢献する意欲・態度を養成する。	部活動加入率を男子60%、女子40%以上に引き上げ、次年度以降を見据えて、中学生や保護者から認知される部活動へと活性化を図り、内容を広報するとともに競技力の向上を図る。また、地域中学校との交流をさらに強化し、地域密着型の部活動としての特色を発信する。地域や各関係機関主催の各種行事に生徒会やキャリア系クラスを中心に積極的に参加させる。地域の各種ボランティア活動への参加を全校的な取り組みへと展開する。	B	A	B	部活動加入率は4月段階において、ややUPしたが、女子の部活離れが課題である。特にI類文系、総合コース生徒にこの傾向が強く、入学まえからの対策が必要である。各種地域行事やイベント企画などに対するボランティア活動においては、積極的に推進できた。今年度は、新たに醍醐寺との連携で参画する地域行事にも貢献する事ができた。「身だしなみ指導」においては、女子のスカート丈の遵守、男子のシャツ出しの矯正など成果をあげているが、頭髮違反を含め極少数の違反生徒への啓発と指導の徹底が依然として課題である。また、登校時に比べ、校内、下校時の身だしなみを徹底させていく指導の工夫が必要である。生徒会活動は充実しているが、単に過去の継続だけではなく、取り組み方や内容の向上、企画参加意識の向上など生徒会運営に対する助言指導を充実させる必要がある。問題行動に対して、粘り強くタイミングを逸さない生徒指導の継続は、さらに推進・強化しなければならない。保護者に理解を得、協力体制を求める関わり体制づくりの構築も必要である。ネット問題に対する指導や正しい人権意識の向上などが喫緊の課題である。
	基本的な生活習慣の確立を図り、規範意識を育成する。	立門指導、校内・校外巡回指導や身だしなみ指導の効率化と効果向上を図る。「東稜ハイスクール・ハンドブック」の活用と実践を充実させる。駐輪・交通安全指導週間や遅刻指導を通じて、登下校時の自転車通学におけるマナーの向上や授業規律の確保、基本的な生活習慣の確立を図る。学年部との連携のうえ、各学年生徒の特徴を把握するとともに学年アッセンブリー等を活用して、タイミングを逸さない指導（啓発・呼びかけ等）を徹底する。	B	B		生徒会活動に助言・指導・支援をして各種委員会を積極的に活動させ、質の向上を図る。新入生歓迎会、文化祭、体育祭、生徒総会等の一層の内容の充実と企画提示を図る。
	深い信頼関係に基づく人間関係を育成し、明るく他者を思いやれる望ましい集団を構築させる。		B	B		
進路指導	生徒の3年間を見通した進路指導・進路学習を行う。	計画的に説明会、見学会、体験学習等を実施し、進路意識の向上を図る。あらゆる機会を捉えて、生徒の人間力、将来の社会人としてのマナーの向上を図る。	A	A	A	生徒の進路意識を向上させるとともに、将来を見据えた進路指導をするため、学年部と協力して様々な企画を実施した。2年次末より継続して就職講座を実施するなど丁寧な就職指導を展開した。また、1年学習合宿、2年サマーセミナー、Ⅲ期にわたる3年夏季進学補習などにより学力の向上を図り一定の成果を得た。京都文教短期大学との高大連携事業を今年度も継続して行った。
	就職希望者への指導の一層の充実を図る。	就職対策講座の充実を図るとともに、社会常識を身につける指導の徹底を図る。企業訪問等を積極的に行う。	A	A		
	進学希望者へのきめの細かい指導の一層の充実を図る。	実力テスト等の結果を分析し、教科・学年の学習指導に役立てる。進路補習、学習合宿等を行い、学力の伸長を図る。	B	B		

人権教育	あらゆる教育活動を通して、基本的 人権を尊重する精神の涵養を図る。	学校や地域の実態に即した人権教育推進計画を年度当初に策定し、全校で推進する。また日常的に計画の実施状況を点検、評価を行い、改善を図りながらの実践を推進する。	A	A	人権教育会議を計画的に実施することができなかった。 ただし、学年部・教務部との連携のもと年間を見通した人権教育を推進することができた。実施後のアンケート内容を次年度へ繋げられるものに活用した。本年度の実践をベースとしながら、京都府の過去の同和教育の手法を参考に、来年度の人権教育計画を策定し、一層の充実を図りたい。
	自己と他者を尊重する豊かな感性を 育み、実践できる態度を育成する。	人権教育会議で人権学習や講演会の企画・立案を行い、関係分掌、教科、当該学年と連携して実施する。 人権を考えるためのアンケートを実施し、その分析を通してよりよい人権学習を構築する。人権学習後に感想文を書かせて、学習効果を検証しながら改善を図る。	B	B	
健康・安全 教育	交通安全や薬物に対しての正しい知識と理解を深め、規範意識の向上と 道徳観を育成する。	1年生対象に「薬物乱用防止講演会」「非行防止講演会」「情報モラル教育」を実施する。 山科署交通安全課、醍醐十校区自治連合会、PTAとの連携を密にし、登下校時の交通安全指導(特に自転車走行のルール遵守)を推進する。 自転車安全走行講習会を実施する。	A	B	山科署生活安全課のスクールサポーターを講師に招き、10月に薬物乱用・非行防止講演会を1年生に実施した。 登校時の自転車安全走行指導については、年間を通して計画・実践しており一定の成果を上げているが、さらなる啓発活動が必要である。府警本部、山科警察署・PTAとの連携を一層強化したい。問題行動としてのきっかけにもなっており、京都府ネットパトロールでも、急増しているネット社会での在り方や性意識調査などを通して、自己管理の能力の向上と教職員間の共通理解をさらに図る必要がある。 毎月教育支援会議などで学年の協力を得て生徒の情報を收拾し、職員会議などで共有した。保健部と担任を中心に支援チームを作ったり、地域支援センターと連携したり、医療機関の情報を得るなどして、情報の收拾や支援に努めた。また、啓発プリントを頻繁に発行して、生徒や教職員に社会的スキルを啓発した。文化祭においては、保健委員会が身体能力測定や物づくりなどの活動をした。
	支援を必要とする生徒に対する情報を 教職員が共有し、協力して具体的 な支援ができる体制を作る。	教育支援会議で生徒の情報を掌握し、職員会議などで共有する。 教職員によるチームや外部機関との連携によって、個々の生徒に応じた支援をする。 教育相談や特別支援についての理解を啓発する。	A	A	
	生徒が自分自身の身体や心について の理解を深め、自己管理できる能力 をつけられるよう働きかける。	性や社会的スキルに関する知識を持ち、実際に対応できる力を身につけさせる。 講演会だけでなく、保健だよりや掲示物を通じて、生徒の意識を啓発する。 相談や支援を必要とする生徒に対して個別に粘り強く指導する。 委員会活動を充実させ、生徒が自主的に取り組む仕掛けを作る。	B	A	

学校図書館	生徒の読書意欲の向上を推進する図書館教育の一層の充実を図る。	読書推進のため、図書館まつり、移動図書館等様々な取り組みを計画・実施する。図書館検索システムの活用を推進し、生徒個々への読書相談を充実させる。朝読書検討会議を中心にして、朝読書（おは読）の取り組みをさらに充実させる。自主的・積極的な図書委員会活動を進める。	A	B	B	読書推進につなげるべく、広報活動の一環として、図書委員会活動を推進させ「図書館まつり」などを計画し、「図書館だより」や「本と私」等を継続して発行している。 また、実務的にはコンピュータによる貸出・返却業務も軌道に乗り、生徒への読書相談も充実してきた。 さらに、読書活動推進のためには、「おはよう読書」についても、継続して手を入れ、工夫した取組を推進したい。 授業における図書館・視聴覚教室活用の機会もさらに充実させたい。 芸術文化団体鑑賞が本校の特色を生かせるよう「検討会議」を開催し、意見集約に努めた。
	視聴覚教育の充実を図る。	視聴覚機器の充実と更新を進め、授業等での利用の調整や学習支援の充実を図る。	B	B		
	芸術・文化鑑賞教育の充実を図る。	優れた芸術・文化活動に触れる機会を促進するため、芸術文化団体鑑賞について実施内容・方法を検討する。	A	A		
学習環境安全管理	学習環境や生活環境を整え、生徒の美化・衛生意識を向上させる。	日常の清掃活動に取組意識を高める。校内に姿見を設置して、自己点検する意識を育てる。花壇を充実させ、学校に安らぎの空間を作る。	B	A	A	美化委員が清掃点検活動を継続して実施した。また、職員室前に姿見を2面設置した。総務企画部と協力して玄関及びオープンカット付近に花壇を設置し管理した。
施設・設備管理	安心・安全で教育効果向上に繋がる施設・設備環境の維持・管理に努める。	生徒・教職員の情報交換連携と巡回等により破損・危険箇所の早期発見・早期対応体制を推進する。効率的な予算執行により教育環境の改善を更に押し進める。	A	B	B	破損箇所については、発見者からの連絡を受け、生徒指導部をはじめ、各関係者との連携のもと、できる限り速やかに対応することができた。予算執行については、校内執行と本庁執行に分け対応している。
情報・文書管理	適正な文書管理による情報管理体制を推進する。	文書の保管・廃棄など校内文書の適正な管理を通じ、より確実な学校情報の管理体制を確保する。	A	A	A	校内文書の総合的な整理において、PCデータ管理等昨年度11月から、具体的な改善に向けて取組み、管理面での成果を上げることができた。
修（就）学支援	修（就）学機会保障のための支援策を充実させ、保護者への情報提供を促進する。	在学中や卒業後の経済的不安を軽減し、修（就）学機会の確保を押し進めるための支援策を広く紹介することにより、希望進路の実現を援助する。	A	A	A	高等学校等修学資金が全生徒の30%、日本学生支援機構予約奨学金が3年生の55%強の利用があった。保護者向けの説明会の実施など支援策の成果だと考える。

家庭・地域 社会との連携	活発な広報活動や情報発信を行うとともに、次年度以降に向けて、本校の特色ある様々な教育活動と未来像を発信するための企画を充実させる。	東稜だより、学校案内パンフレット、ポスター等を発行し、本校の魅力をアピールすることにより、生徒に選ばれる学校としての広報を強化する。ホームページやお知らせメールを通して、保護者や地域への情報発信を行うとともに、その内容を、各分掌、教科等と連携を図りながら着実に進めていく。	A	B	新しい学校紹介パンフレットの作成や学校説明会における生徒ボランティアスタッフの事前・事後指導など、意欲的に取り組めた。HPの更新やお知らせメールの活用などタイミングを逸することなく活用し、学校行事等の情報を発信するべく努力したが、課題が残った。PTA活動では、会報誌などの作成に関わり、誌面工夫など成果を残しているが、保護者間交流に対する働きかけがやや弱いことが課題である。 各地域行事への事前会議や当日の関わり等は、副校長、生徒指導部との連携のもと広報活動等を積極的に進めることができた。各取組における写真等、全ての記録を残して有効活用できた。今後も一層の工夫と充実を図りたい。
	PTA活動と連携を図る。	PTA活動に積極的に関わり、社会見学、文化講座、会報誌などの取り組みを実りあるものとする。また、保護者の悩み相談など、保護者間の交流を図り、開かれたPTA活動を実施する。	B	B	
	地域に信頼される学校として、各種の地域行事、関連行事などへの積極的な参加を推進する。	地域との交流を積極的、継続的に実践し、「人間力」を育むキャリア教育の一翼を担う。また、ボランティア活動など、地域への貢献・地域に寄与する学校としての取組を充実させる。	A	A	
学 年	【第1学年】 自他の命を大切に、高校生としての自覚を持ち、自立と社会貢献ができるように、進路を見据えて目標を持った学校生活を送らせる。	挨拶の励行、言葉遣い、服装などの基本的な生活習慣を確立させる。学習環境の整備、家庭学習習慣の確立を図り、基礎学力を向上させる。自己認識を深めさせ、自己の興味・関心を発見させる。学校行事を通して、自主的で規律ある集団をつくり、愛校心を持たせる。	B	B	指導に対して素直に受け止める生徒が増えているが、悩みを抱え人とのコミュニケーションが苦手な生徒も増えている。継続した個別指導を通して、目標を確立させ、次年度へ繋げる努力をした。各集会や行事において団体行動が速やかに行えベル着も定着した。進路学習、カタリ場などを通して、自己認識を深める事ができた。また、文化祭においては、各クラス創意工夫とまとまりを見せ、全体でもしっかりと取り組めた。さらに研修旅行（スキー研修）では、文化祭の経験を活かしクラスの団結や交流を深め、一定の成果があった。
	【第2学年】 学校の中核の学年としてのさらなる自覚と豊かな人間性を備えた高校生活を送らせる。また、進路指導の確立に向けて計画的な指導をする。	挨拶、言葉遣い、服装など基本的な生活習慣を確立させる。授業に集中させ、家庭学習の習慣をつけることで、学力の向上を図る。進路学習などを通じ、自分の将来を真剣に考え、具体的な進路目標を立てさせる。学校行事を通して、自主的で規律ある集団をつくり、愛校心と社会性を育てる。	B	B	
	【第3学年】 最終学年として自覚を持たせ、進路実現に向けて充実した高校生活を送らせる。	挨拶や言葉遣いなど、社会で必要なマナーを身につけさせる。授業を大切に組みませ、学力の充実を目指す。個人面談を密にして個に応じた進路指導を行い進路の実現を図る。	B	A	
		文化祭の演劇発表、自主活動の充実努める。	A	A	

平成26年度 府立東稜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ **実施段階** ）

評価項目	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
国語科	授業規律を確立し、基礎学力の向上に努める。	課題を定期的に出し、点検する。 小テストを頻りに行い、漢字力・語彙力をつける。	A A	A A A B B A	<ul style="list-style-type: none"> ・課題や小テストなど基礎学力をつけるために日常的に指導できた。 ・進学指導についても工夫した。しかし、例年どおり受講者が減少する傾向にあった。 ・生徒の自主性や学習意欲を育成する授業についても積極的に取り組めた。 ・生徒の様子が変化する中で、それに合わせた指導方法を模索する必要がある。
	発見的な応用力を育成する。	社会人講師を活用して、視座を広げる。 進路補習を充実させ、受験で対応できる学力をつける。	A B		
	社会人として生きるのに必要な力を育成する。	自己推薦文など文章による自己表現力をつける。 グループワークを取り入れて、コミュニケーション能力を育成する。	A A		
	教員間の連携を深め、共通理解を促める。	教材・試験の情報を共有する。 評価の仕方が基準を築く。	B B A		
地歴公民科	個々の生徒に応じた指導のあり方を追求し、生徒の興味・関心・学習意欲を喚起させる教科指導・評価方法をさらに工夫する。	学習ノートやプリント等の提出により生徒の知識定着度・理解度を日常的に確認する。 研究授業等を活用し、指導法の交流を推進する。	B A	B B B A A	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業を実施し、指導法の交流を図ることができた。 ・視座異教材等を活用して生徒の学習意欲を高めることができ、さらに効果的な指導方法を追求していきい。 ・ノート点検・課題提出等により、生徒の学習定着を確認しているが、その結果と査査成績が連動していない点が課題である。 ・類・類型・コースの別に応じた評価方法を工夫した。 ・3年生進路補習を進路目標達成に向けて精力的に行ったが、より体系的な指導方法を模索したい。
	自ら積極的に学ぶ力をつき、発見的な学習をさせる。	視座異教材を積極的に利用して、生徒自らの学び姿勢を喚起するとともに、学習成果の定着を図る。 社会人講師等の活用、高大連携・ヒューマンリサーチシリーズを推進し、発見的学習の充実を図る。	B A		
	生徒の進路目標に応じた授業を行う。	クラスの特性や生徒の適性・進路に応じた教材や授業方法を工夫する。	A A		
数学科	「分かりやすい」「理解できる」授業を実践し、不認定者数を減らす。	小学校・中学校でのつまづきを確認し克服できる授業を入学初に行う。 到達目標に達していない生徒に対しては適宜補充を行う。 校内研修として公開授業を実施し、教科指導力を高めよう。	A A B	A A B B A A B B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習つまづきしている生徒に対して補充を行い丁寧な指導を行うことができたが、不認定者を減らすためにさらなる充実が必要である。 ・模試や実力テストの解題時間を十分に確保できていない講座があるので、今後工夫が必要である。 ・進路に向けた補習では熱心に取り組む、力を伸ばした生徒がいる反面、挫折してしまう生徒もいたため、より多くの生徒にとって充実したものにしていく。
	学年・類型毎にチームを組め、連携しながら授業を進める。	問題集の提出、平常テストや長期休業明けの課題テストなどをこまめに行う。 府立高校実力テスト、進研実力テストなどの受験時間を確保する。	A B B		
	進路実現に向けて補習授業を積極的に行う。	長期休業中に進学希望者対象の補習を実施する。 進路希望に沿った平常進学補習を行う。	A A		
	高大連携を積極的に行う。	関連する大学からの出前授業や、施設見学等を積極的に行う。	B B		
理科	日々の授業において学習規律の向上に努め、実験・視座異教材などを用いて、より一層の興味付けを行いながら基礎学力の涵養に努める。	授業における指導状況の情報交換に努め、課題の共通理解を図ることで指導に役立てる。 実験・視座に関するレポートについて、考察を充実させる。 小テスト等を実施し、学習内容の定着及び家庭学習の習慣づけに努める。	B B B	B B B B	<ul style="list-style-type: none"> ・定例（週1回）の会議を持ち、生徒状況や直近の課題について理科全体で情報を共有し、対策や指導などに役立てることができた。 ・家庭学習の習慣化に努めたが、成果にまで繋がらなかったことが課題である。 ・進学補習、学習合宿だけでなく、夏期・冬期セミナーの充実も努めた。 ・高大連携、施設見学を行い、教科指導や進路指導に役立てることができた。 ・基礎科目の有効な授業展開に課題が残った。
	充実した進路対策を推進するために、個々の希望に応じた適切な進路学習指導を実施する。	進学補習において、センター試験・二次試験対策など、個々の希望に応じ、充実した補習になるよう努める。	B B		
	それぞれの分野に関する最新の情報は共有を行い、教科の発展的指導・理系の進路指導の助力となるように努める。	関連する大学・企業・施設等の見学会や連携事業を実施し、教科指導、進路指導を充実させる。	B B		

評価項目	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
英語科	英語を通して言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションをしようとする態度を育成する。	コミュニケーション英語Ⅰ・総合英語を中心にAETとのTT授業を定期的実施する。	A	<ul style="list-style-type: none"> TT授業を定期的実施しコミュニケーション能力の向上がみられた。 家庭学習の習慣のない生徒については、より一層の働きが力が必要である。 土曜学習や補充については、一定の成果を上げた。
	基本的な英語能力の定着を図る。	入学時に新入生の学力を把握し、基本的な内容の定着に努める。小テストの実施やワークブックの活用により家庭学習習慣を確立させるように努める。	B A B	
	進路達成に向けた教科指導の充実を図る。	副教材を取り入れ、密度の濃い授業を行う。土曜授業等を活用し授業内容の充実を図る。各学年に的確な個別補習を実施する。	B A B	
保健体育科	運動の意義について理解を深めると共に健康づくりや体力の向上の方法を理解させる。また、生涯にわたって健やかな身体を養うための身体能力を身につけ、そのための知識を定着させる。	健康のさまざまな側面について理解させ、健康づくりのための運動の大切さを理解させるとともに体力づくりを実践する。2時間連続の授業を確保し、持久走授業を通して循環呼吸の基礎体力の向上並びに体力づくりを目指す。	A A	<ul style="list-style-type: none"> 3学期の持久走授業を通して持久力をとともなう体力づくりトレーニングを組み込むことが課題として残った。 年度当初にしっかりと集約行動ができていたが、すべてのシーンにおいて訓練した「考え方」を発揮するまでには至っていない。 球技においては、お互いの体力が対等にに応じて試合を進めることができた。 専攻種目実施をとおして、学年を超えてアドバイスし合い専門性を高めることができた。 キャリア系スポーツ生徒においては、アシックスマジックミュージアム見学等を通して、偉大なアスリートの姿に触れ目標を高く持つことの大切さを学んだ。
	心と体を一体としてとらえ、授業を通して運動を実践していく中で、心身の調和のとれた発達を促す。	年度初めに全学年に集約行動を取り入れ、規範意識の向上に役立てる。生涯スポーツの観点から生涯にわたって、スポーツとのかかわりを持てるよう授業内容を工夫する。	A B	
	個人生活や社会生活における健康や安全に関する事柄を生徒を通して捉え、自らの健康を管理し、改善できる資質能力、態度の向上を図る。	ルールやマナーを守り安全に配慮すること等により、体育の授業をより円滑にそして安全に参加し参加させるための心構えを身につけさせる。	B B	
	キャリア系ライフスポーツコースの講演（講義）や実習の内容をより一層充実させる。	体育理論、生涯スポーツ、体育特講の各授業の甲斐画を実践し、学年を超えた縦のつながりの創出を図る。外部講師の活用を充実させ、内容の整理を図りながら、より質の高い取組を実施することにより、専門種目の技術の向上に繋げる事を目指す。	A A	
芸術科	生徒自らが積極的に芸術に取り組む姿勢を涵養し、芸術の表現や鑑賞の視野を広げられる心育や学力を	授業を大切にさせるため、積極的に授業時間に取り組めるよう教材を工夫しながら、表現の質を高められ、かつ達成感が得られる指導を目指す。社会や身の回りの人との関わりを大切にする鑑賞教育を進めながら、芸術文化を愛好したり、相互鑑賞が可能になる指導を目指す。	A B	B
家庭科	生徒が自分の生活を幅広い視点から見つめ、主体的に生活の充実と向上を図る学びの方向性を示す。	主体的に生きる生活者として不可欠な技術・能力を身につけることを目標に実践・実習を取り入れる。社会と自分の関わり、家庭生活と自分の関わりを実感し、生徒自身が主体的に考える力を育てる教材を工夫する。	A B	B
情報科	情報活用の実践力を高めるとともに科学的な理解を深め、情報社会に参画する態度を養う。	情報を適切に扱ったり、自ら情報活用能力を評価・改善するための基礎的な知識や考え方を学習させる。情報が情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要な情報に対する責任を考える態度を養う。	B C	B

学 校 係 員 評 価 委 員 会
に 関 する 評 価

※ アンケート調査結果について（質問21項目）

・質問21項目に対して、2「教育目標に取り組む」、3「特色ある教育活動」、4「学力向上に努めている」、5「生徒を適切に評価」、6「生徒に適切な対応を実施」、9「服装など適切な指導を実施」、14「学校行事の充実」、15「健康・安全に対する適切な指導」、16「事故対応を適切に実施」、21「広報活動を適切に実施」の各項目について、非常に高い評価をいただきました。
逆に、「あまりあてはまらない」及び「わからない」という回答が多い質問は、1「教育方針の理解度」、11「進路情報の効果的な提供」、12「進路達成の期待に応える」、19「家庭との連携を図る」、20「相談等を学校に伝えやすい」が挙がっており、その他の6項目（「生徒のマナー」、「部活動への参加」、「適切な進路指導」、「HR活動の充実」、「施設・設備の安全配慮」、「環境美化活動の充実」）については、昨年度と同様におおむね良好という回答をいただきました。

※ 個別の意見・感想について（順不同）

・授業アンケート結果について、「教科別」では授業に80%近くの生徒が満足しているという結果がでていますが、「生徒結果」においては、（6：わかりやすい授業・・・）では60%に満たないのには、どのような理由があるのかが、少し気になりました。その他、保護者のアンケート回収率が低いと感じます。学校に関心がないのでしょうか。おそらく、生徒から保護者へ（保護者から学校へも）届いていない現状があるのではないのでしょうか。高校生にもなれば仕方ないでは済まされない問題だと思います。より社会人に近い高校生だからこそ託された通知や案内文は準備された方の努力や、労力等への配慮や信頼して託されているという自覚（保護者であれ、他人への手紙を自身で処分することの罪悪感）を持つことは些細なことかもしれませんが、これから世の中で働く上で基本となる部分でもないでしょうか。先生方におかれましては、生徒へ何かを話す際に「思いや作成された方への配慮」などを語っておられるのでしょうか。本来、家庭で教育する事だとは思いますが、学校でもそのような話しを生徒達に伝えていただければと強く思います。
・社会情勢を考慮しながら、生徒につけなければならぬ学力や態度を具体化して、日々の取組に落とし込んでいる姿が良く見受けられます。山科・醍醐地域の活性化のためにも地域の教育機関のリーダーとしての発展を願っております。数々の取組において、中高連携の可能性を昨年度模索し、まずは高校からの教員研修（派遣）という形でスタートできたと思います。
・見違えるほど、挨拶を元気づけてくれる生徒が増えたと思います。東稜生の内面の素直さが伺えます。
・朝早くから、管理職の先生を始め、生徒へ熱心な指導をしておられる先生方の姿を拝見しております。感謝しています。
・生徒はもちろん、先生方にとっても魅力的な学校へとますます発展されますように祈念しています。
・学校を評価するときには、参考となる資料が必要ですが、このように豊富で分かりやすい資料を用意していただき、ありがとうございます。今後も生徒達のために「温かく、そして粘り強く生徒を伸ばす学校」として、情熱溢れる御指導をよろしく願います。

次 年 度 に 向 け た 改 善 の 方 向 性

※ 1「キャリア教育の推進」、2「地域と共に育つ学校」、3「確かな進路実現」という3本柱に特色ある教育活動を落とし込み、精選、充実させながら、以下の7項目をさらに継続・推進していくことが本校の使命。

- ①「真の自己実現にTRY」をスローガンに「人間力」と「質の高い学力」を育むキャリア教育の推進を一層継続し、地域と共に育つ学校として、ニーズにあった確かな進路実現を目指す。また、特色ある教育活動を展開し、生徒が「伸びる」・生徒を「伸ばす」学校の取組をさらに充実させる。
- ② 規律ある集団を育成するための指導を徹底し、安心安全で落ち着いた学習環境を維持し、最後までやり切る・やり切らせる指導を推進する。また、新入生オリエンテーション等を改善し、身だしなみやあいさつを大切にする等社会的マナーの充実を目指す。
- ③ 生徒の学びへの姿勢を向上させ、授業を大切にし主体的に学習に取り組むことで、学習時間の伸張を図り希望進路の実現を目指す。
- ④ 生徒の心身の発達や健康の増進を図るため、教育相談・特別支援教育体制の一層の充実を図る。
- ⑤ 部活動の活性化と競技力の向上、地域ボランティア活動等の特別活動の充実・一層の活性化を図る。
- ⑥ 保護者や地域に積極的に情報を発信するとともに、「選ばれる学校」「開かれた学校」を目指して、地域貢献・地域交流を、積極的に継続的に実践し地域社会及び小・中学校との連携を一層推進する。
- ⑦「土曜授業」の成果と課題をふまえながら、取組の充実を図り、学校全体としての平常授業と課外活動のバランスをさらに推進する。